

# 鳥取県青少年育成アドバイザー 協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 69号  
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会  
発行日 2016. 1. 17  
編集 芳村恵子

～年頭に問う～志はあるか！！

全日本青少年育成アドバイザー連合会  
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会  
会長 山本邦彦(法名邦道)

雪の無い、好天の穏やかな正月も早  
9日。落ち着いた時間の中で、今年の生き  
方を考えた。

私の年賀状には

～子どもが伸びるチャンスを活かそう～

と、私が提唱する青少年育成運動の重点  
目標と、

～今年もいちにち一日を楽しく大切に生き  
る～

と、私の日々の生き方を今年の目標として  
挙げた。

そのあと、昨年心に強く残ったできごと  
を報告した。終わりに

～今年も、志はあるか と問いながら～  
と書いた。

これは、私自身に何時も問いかけながら  
一年を生きると同時に、私の触れ合う人々、  
とりわけ青少年育成運動に関わる人達に、  
問い続けたいと思っている為である。

今年わが師末次一郎が中心となって、  
青少年育成国民運動を越して50周年にあ  
たる。この国民会議が生み育てた青少年  
育成アドバイザーが、全国組織を発足して  
20周年に当たる記念すべき年である。

師が他界してから15年以上が過ぎたが、  
私は上京した時は、墓参を心がけている。  
弟子の一人として、私の生き様を報告し、  
ご指導を仰ぐためである。

師の墓碑は「末次家の墓」とか「南無阿  
弥陀仏」では無く、「留魂」と刻してある。

吉

日

自筆によるもので、松陰の「留めおかまし大  
和魂」の想いそのままと信じている。



松陰が短い生涯の間に、あれだけの維  
新を成し遂げる原動力となり、その志士を  
育てることができたのは「君の志は？」と問  
い、その志を貫くことの大切さを深く自覚さ  
せたところにあったと私は理解している。

ならば、私の志は何だ！。即座に答える  
「青少年育成国民運動の再興」である。  
そのため「青少年健全育成基本法」の制定  
が不可欠と考えている。

今、若者たちに「志はあるか？」と問いた  
い。40年ほど前に「親を見りゃ、俺の将来  
知れたもの」という中学生の川柳が紹介さ  
れ、強いショックを受けたことがある。

今、若者の多くは、その時代よりも、更に  
夢も希望も失っているのではないかと、私は  
感じている。以前、TVが若者の現状を紹介  
し「とにかく、生活保護でも良いから、生きて  
いければ良い」と云った事が、その根拠であ  
る。

日本の未来を担う若者の心の中にこの  
ような思いが少しでもあるとしたら、悲しいで  
はないか。

次ページに続く

## 青少年育成推進指導員等研修会

西浦 公子

青少年は様々な問題を抱えているが、これは大人社会の反映である。若者を取り巻く大人に、夢も希望も無くて、日々の暮らしに心身をすり減らし、利己的でお金最優先の生き方をしているからに他ならないのでは？と私は感じている。

だからこそ、青少年育成に関わる私たちは「志を持ち」その実現に向かって日々、生き生きと瞳を輝かせて生きていかなければならない。



**国民運動発足の時「青少年は日本の希望である。日本の明日を担い、世界の将来を築くものは青少年である**

・・中略・・

**有為の人として成長することは青少年自身の誇るべき課題であるとともに、国家、国民の大きな責任である」とその決意を宣言している。**

**師末次先生の遺志はここにあると私は確信している。**

それだけに、年頭にあたり、これを確認し、さらに、私と触れ合う人たち、とりわけ青少年育成アドバイザーに

**「貴方の志は？」と問い、その志を結び合っ  
て、団結し、力を発揮して、全日本アド連の  
運動方針の実践を通して育成国民運動の  
再興へと、突き進んでゆく年にしたい。**

「連帯する日本」の同志の皆様や読者の皆様のお力もお借りしながら、子ども達・若者たちが、瞳を輝かせて、明日の日本を築く原動力をなつて、輝いてくれることを夢見て止まない。

良き年となりますように・・合掌・・

2015年12月11日に、平成27年度青少年育成推進指導員等研修会が、倉吉、「伯耆しあわせの郷」でありました。鳥取県青少年育成アドバイザー協議会の一員として、「親業からの青少年の相談のあり方」という演題で話をさせていただきました。

まず、アイスブレイクで少し体を動かしました。

『親業訓練講座』の話の内容は、「能動的な聞き方」で、子どもや相談者の話を聞くときの態度や返答の方法です。その一つである、「わたしメッセージ」つまり、私がどう思っているか、感じているかを表現する方法です。

その中の具体的なコミュニケーションスキルとして、「人の話を聞くときの3つのタブー」について話しました。

3つのタブーとは、

- (1) 否定しない
- (2) 尋問しない
- (3) 話の腰を折らない。先回りをしないです。

お話をした後、「能動的な聞き方」のロールプレイをしたり、エゴグラムをとったり、4人のグループで話し合いをもち、最後に全体でシェアをしました。

参加者の感想として、

- \* 日ごろ家族の良いところを考えたことがなかったので、良いところを見つめる良い機会だった。
- \* エゴグラムで、少し自分の行動パターンが理解できるような気がした。
- \* 相手の意見を聞き、自分の意見を添えて返す。やはり、話し合うことやコミュニケーションは、とても大切であると強く感じた。

次ページに続く

- \* 直接相手の目を見て、息遣いを感じながら言葉を交わすことが、今だんだんと少なくなってきた中であって、“直接”は大きなキーワードであると思う。
- \* グループに分かれて少人数なので、いろいろ会話ができて親しみを感じることができた。
- \* 人と人はやはりコミュニケーションが大事ですね。

等がありました。

推進指導員さんや各市町村の担当者の方々のロールプレイや話し合いなどへの参加姿勢を見て、私も、もっともっとと学ばねば！と感じました。

この研修会で共に学び合うチャンスをいただき、ありがとうございました。



鳥取保護司会研修会に  
出向かせていただいて

芳村 恵子

平成 27 年 12 月 4 日、保護司会事務局より依頼を受け、鳥取市人権交流プラザにて、お話をさせて頂きました。

テーマは「愛と生と性の講座」

今年度、早くから声をかけて頂いており、しかも壮大で深いテーマが二つもあ

り、少しずつ準備していきました。

まずは、保護司さんとはどういう方々なのか、調べてみました。

保護司：犯罪者の改善・更生を助け、犯罪の予防に当たる民間の篤志家。法務大臣から委嘱され、無給。1950 年制定の保護司法で規定とありました。

当日、会場に行くと、私の年齢位の方や、大先輩らしい方が大勢お集まりでした。これほどの方々に、私がお話することでお役に立てるだろうか、心配や不安でいっぱいでした。

でも、そこはやっぱり志のある方ばかりで、しかも普段から寄り添いの心をお持ちの皆さんなのでしょうね。お話を聴いてくださる優しい眼差しに守られながら、何とか最後までやり遂げることができました。本当に感謝でいっぱいでした。

保護司さんと私達青少年育成アドバイザーとは、対象が少し違うところもありますが、誰もが「自立・自律」して明るく生きることができるように手助けし、見守ることに違いはないだろうと思いました。

#### 編集後記

今年の正月は雪も降らず、日頃の運動不足を解消するように、近くの砂丘やあちこちをウォーキングしました。正月太りはどうやら回避できたようです。皆さんのお正月はいかがでしたか。

これから、本格的な寒さがかかるようで、しかもインフルエンザが猛威を振るおうとしています。

うがい・手洗いをして、しっかり食べて、そして良い眠りをとって乗り切りましょう

次回はいよいよ 70 号です。宜しくお願いいたします。